

# ①～④まとめ

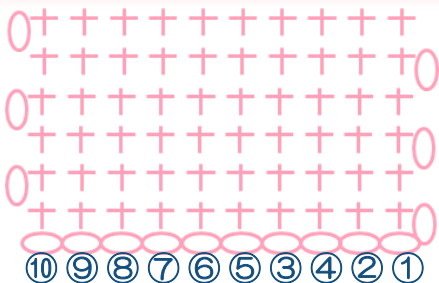
【平面図形で考える】

## 1. 「こま編み」1個分と「くさり編み」1個分は正

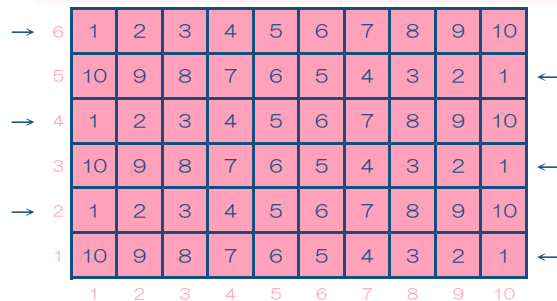
「こま編み」と「くさり編み」は、同じ大きさの正方形とざっくり考えます。しかし、次の段に立ち上がるための「立ち上がり目」の「くさり編み」と、土台になる作り目の「くさり編み」は1個分にはなりません。

「こま編み」1個分の大きさを **1** として、下記の編み図は1段目も2段目も3段目以降も、「こま編み」10個分と、ざっくりとらえてしまいます。

横10目・縦6段の「こま編み」の編み目記



「こま編み」1目分の大きさ= **1** とした図

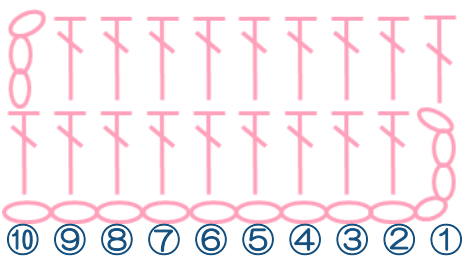


※やじるし「→」は編み始める方向を表しています。  
(左利きさんは反対になるかも。)

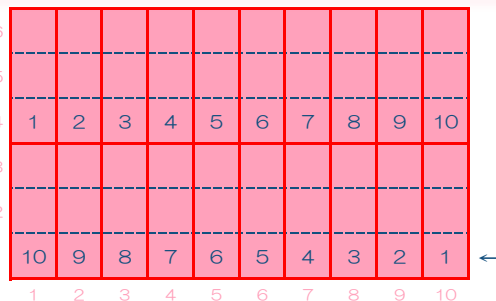
## 2. 「なが編み」は「こま編み」3個分の長方形

1と同じ要領で、「なが編み」は「こま編み」3個分の長方形とざっくり覚えてしまいます。「なが編み」の場合は、「立ち上がり目」の「くさり編み」3個分は「なが編み」1個分となります。土台になる作り目の「くさり編み」は「こま編み」同様、カウントしません。下記の編み図を「こま編み」1個分の正方形を基準として大きさを考えてみます。

横10目・縦3段の「なが編み」の編み目記



「こま編み」1目分の大きさ= **1** とした図



＝「なが編み」1個分

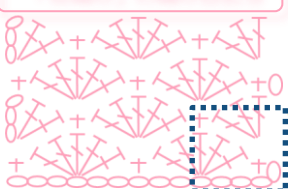
※赤い線で囲った部分が「なが編み」1個分です。

## 3. 模様編みへの応用【松編み】

1と2から、「こま編み」1個分の■正方形が■■■3個集まれば「なが編み」1個に変換できることになります。これを応用したものが「模様編み」だと考えれば、模様編みの理解が簡単になります。

基本的に編み物は、同じ図形の繰り返しによってできる幾何学模様です。「こま編み」と「なが編み」をつないだり、高さにつなげたり、なにもない場所を作ったりするのに「くさり編み」が用いられます。「中長編み」や「長長編み」などは、徐々に大きくしたい時など、模様のつじつまを合わせるときに用いられることが多いです。

「松編み」の編み目記号



拡大

縦の部分は隣の模様と共用している

1 × 4  
「こま編み」4個分

1 × 4  
「こま編み」4個分

左の図の点線で囲った部分は、「こま編み」1個分の■正方形が4個分になります。「松編み」は左右対称になっているので、横はその倍の8個分で模様が出ていますが、端の目は隣の模様と共用しているため、実際には7個分です。

平面で編むときには「1模様7目×模様の個数+1目」必要になってきます。

※模様の端が隣の模様と共用している「模様編み」についてその役割が、建物の「柱」に似ているので、私は「柱の模様」と呼んでいます。

#### 4.各段ごとの「頭」の数があれば、簡単な模様編み

「模様編み」の多くは各段の目数は同じです。

複雑そうに見える模様でも、「こま編み」1個分の大きさを基準に考えれば、目数が同じであることが早く見分けられて、模様編みへの理解が早くできます。

たとえば、「なが編み」の数が増えていてもその分「くさり編み」が減っていたり、その逆もあります。

縦では■が1個分だったり、3個分だったり複雑に変化していても、横では■の数は常に同じであれば、編み進めるうちに高さがそろってきます。

1つの模様が出来上がるまでに、段数を多く必要とするものは、セーターなどへの応用する場合に、目立つ箇所でも模様途切れないようにするなど、注意が必要です。

#### 5.縦と横を変換【模様編みへの応用】

「こま編み」が3個集まれば「なが編み」1個分になります。

模様編みの中には「なが編み」がパタンと横に倒れているモノが出てくる模様もありますが、これも■を基準に考えればかりやすいと思います。

「こま編み」1個分の目を2つ飛ばして、3つ目に「なが編み」の頭がくるようになっていると思います。

そうならない場合、その段では目数が変わってきて、その箇所には「穴」があくような模様の場合があります。

次の項で説明します。

#### 6.各段で目数が違う場合【1 模様出来上がると同じ目数】

各段ごとに目数が違う場合はちょっと複雑ですが、1 模様出来上がると同じ目数のものは「ななめ」の要素が出てきていただけなので、模様を編むこと自体は最終的にはそんなに難しくありません。編み進めれば四角くなるものが多いです。ただセーターなど曲線が入ってくるものへ応用するのは結構むずかしいです。

#### 7.各段で目数が違う場合【分散増減】

完成する形が、円や扇形になる場合、各段や各模様ごとに目数が増減します。「編み物ならではの」技法です。

作図するのは結構むずかしいですが、編み図通りに編むのはそんなに難しくありません。

#### 8.縦と横を変換【縁編みへの応用】

仕上げに「縁編み」を付ける場合、■を基準に考えればラクラク理解できます。



									1	2	3
											4
9											5
8											
7											
6											
5											
4											
3											
2											
1											
		1	2	3	4	5	6	7	8	9	

左の図のように、出来上がった編地を全部■で考えれば、縁編みをした時のバランスがわかりやすくなります。

【カドについて】黄色い■の箇所  
平面に編む場合、カドが「こま編み」なら、5目に増やしますが、次の次の段の■の数を考えれば、次の段で「頭」が5個必要になるのがわかってきますね。

縁編みの模様の数と、■の数が合わない場合、できるだけバランスよく数のつじつまを合わせます。

カドでつじつま合わせるよりも、中ほどで調整しておいてほうがきれいに仕上がります。

最初から数が合わないとわかっていれば、編み針の号数などでも調整できるので、仕上がりに差が出てきます。

